

令和6年度 Y I C看護福祉専門学校 第1回学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和6年10月29日（火）14：00～15：15

場所：新館 201 教室

委員出席者

- A 高等学校教員（委員長）
- B 山口県看護協会 会長（副委員長）
- C 山口県介護福祉士会 会長
- D 看護学科実習施設 看護部長
- E 介護福祉学科実習施設 理事長
- F Y I C看護福祉専門学校 看護学科学生の家族
- G Y I C看護福祉専門学校 介護福祉学科学生の家族

欠席者：なし

学内教職員出席者

- H 校長
- I 副校長
- J 副校長
- K 事務長
- L 看護学科 学科長
- M 介護福祉学科 学科長

書記：看護学科教員

1. 校長挨拶

今年度第1回学校関係者評価委員会開催にあたり、先週、本校で起こった学生同士のトラブルについて謝罪を申し上げる。本校の学生の動向としては、両学科とも志願者が減少してきている。これは全国的な傾向ではあるが、今のところの有効な手段を講じることができてないというのが現状である。どういう状況であっても学校教育あるいは学校運営を工夫して改善していかなければならない。そのためにも皆さんの忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 委員自己紹介

3. 議事

- (1) 令和6年度入学生入学動機アンケート調査結果・・・資料Ⅰ－1、資料Ⅰ－2

I : 資料に沿って説明をした。

議題（1）について、全員一致で承認した。

- (2) 令和6年度重点項目取り組み状況（中間報告）・・・資料Ⅱ

J : 資料Ⅱをもとに説明した。

- E 委員：昨今の人手不足ということから、養成校に人が来ないということは施設の未来が陰ってきている。何とか施設職員と協力してどうにか入校者数を増やす手立てがないか。
- J : 介護福祉学科の入学者の多くはご家族が福祉職であり、その後ろ姿をみて福祉職を目指す学生がいる。施設職員の方も誇りをもってしている仕事にご家族も希望したときに進めて頂けるような支援があるとよい。また奨学金の周知もしながら声かけを勧めて頂きたい。
- E 委員：家族会を開いて勧めていきたい。
- J : 例えば学生が就職された際には、就職お祝い金や奨学金制度があったりするとよいのではないか。
- H : 根本的には職業理解を小学低学年から勧めていかなければならない。養成校だけでは県や市と協力してということは難しい。学校だけでなく職能団体や施設の協力を得て県や市を巻き込んでいろんな方法で取り組んでいきたい。具体的な方法はこれから思案していく。
- E 委員：今年度職業フェアの人手不足の支援で予算を各縣市町で要請すればある程度、独自で使えるという話を聞いている。担当機関に相談して、奨学金やお祝い金含めて、少しの人でもこの世界でこの業界でと思って目指してくれる学生を増やせる仕組みづくりができればと思う。今からヒアリングが始まるので心の部分はしっかり伝えていきたいと思う。
- J : C 委員には職能団体から出前講座にも出て頂き小中高含めて、ご助言いただきたい。
- C 委員：福祉介護の啓発として小中高生を対象に話をしている。小学生は車いすの体験を通じて知るということから始まり、中学生の職業理解は高校の進路につながる。地域のイベントで人の集まる場所に出向いて養成校の学生募集をするとY I CがあるというPRをしていく必要があるのではないか。中学生や高校生を対象とした職業フェスタではブースで1000人弱の学生の対応をしたことは、介護福祉の啓発活動につながった。
- A 委員：職業意識を定着させてから就職することが大切ではないか。ご家族が福祉職であれば福祉を身近に感じることはできるかもしれないが、それ以外の学生にどのように伝えていくかが大切ではないか。福祉の良さというのは、実際に家族の介護に携わって初めて知る。その良さを、将来介護を目指す学生に伝えていかなければいけない。山口県の福祉教育の現状は、教員を取る人が少ない。県内の高校の福祉教育のある学科はほんの一握りしかない。また特別支援に行く学生が増えた。そのような現状を鑑みてもとても厳しい。将来介護が必要になるということを根気強く伝えていく。今の子供たちに将来必要になるというこ

とをどのように伝えていくのかどのように意識をもたせるのか大変難しい課題である。

議題 (2) について、全員一致で承認した。

#### 4. その他

I : 学校自己点検・評価表について 2023 年改訂版で今年度の評価をする。

項目については検討段階だが、昨年比べて 90 項目以上増やして評価していく予定である。将来的に Y I C 学院が第 3 者評価を導入することを考え、準備に入っている。評価結果については、2 月の第 2 回目で報告していく。

C 委員：令和 6 年度入学動機アンケート結果の介護福祉学科 Q11 オープンキャンパスの印象の項目のうち「㊸卒業生の話が聞けて安心した」とありオープンキャンパスを複数回開催している中で卒業生が関わるようなものを開催されているのか。

I : 看護学科では、オープンキャンパスで、就職している病院から卒業生に来ていただいている。オープンキャンパスは学校を知り、学校生活がイメージできるという目的で開催している。内容は、就職して 1 年目から 3 年目までどのように新人教育を受けて成長していくのかイメージできるものになっている。参加者から好評であり、卒業生の言葉のなかから責任の重みややりがい、誇りを伝えて頂くことで職業意識が高まると感じている。昨年より卒業生に来ていただく回数を増やしたことがイメージ化につながったのではないかと考えている。

D 委員：山口県では看護医療以外の分野でも働く人が少ない現状であり、県と協力して働く人を増やしていくしくみを考えているが、介護看護人材を養成していくしくみができればと思う。

K : 私立の学校法人の単体では県要請は難しい。職能団体の方と協力してなら介護看護人材を養成していくことは可能なのでご協力いただきたい。

F 委員：入学当初は心配だったが国家試験勉強もしっかりやっている姿がみられ、周りの環境に恵まれていて安心している。

G 委員：国家試験に向けて本人も頑張っている。介護の種類などもわかってきて、経験することで理解が深まっている。いきなり就職するよりは理解することができて良かったと思う。

A 委員：現在、就職はどのような現状か。

L : 2 年生は夏休みの前に病院の選び方について説明の時間をとってインターンシップ等に参加している。夏休みにしっかり病院説明を受けてイメージをつけていく。その後、履歴書の書き方、自分の考えを表現していくという練習や面接練習をしている。2 年生の 2 月から就職試験が始まり、6 月あたりで

学生の半分くらいが内定をもらっている。10月くらいになると国家試験終了後に就職試験を受けるという学生もいるため最後まで支援をしている。

M : 介護福祉学科2年生は、現在日本人19名のうち6名が内定している。昨年度は16名内定していた。クラスのカラーの違いにより慎重に選んでいる状況である。今年度15名の学生は、施設選びを終えている段階である。年内には就職内定率100%を目指している。

B 委員 : 奨学金制度に関して県の奨学金は条件があり使いにくいという意見もあり、職能団体から行政に使いやすいように頼んでいる。奨学金自体が周知されず、活用されていないことも感じているため、ご家族に奨学金を周知していくことも大切ではないか。最近、教育委員会が主催で、中学生に仕事を周知するというので市内の中学生を対象にした職業フェアに職能団体が出向いで参加している。また、働き手の不足に関して、労働政策課が幅広く人材確保で動いているが、まだまだ縦割りなので横のつながりを強くして相談しやすいしくみが必要である。2040年にむけて子供は少なくなっていくが、全体をみて動いていかなければならない。看護の職能団体が運営するイベントには、看護学校にも参加していただいているのでこれからも継続していきたい。

K : 学校としても協力していきたい。

第2回学校関係者評価委員会は令和7年2月の開催予定